

# 龍崎 滋 議員活動報告 Vol.2



第3回9月定例会は、平成23年度の一般会計と特別会計の補正予算や人事案件など11件が示され、平成22年度の決算認定8件とともに、原案通り可決されました。注目の財政状況は、行財政改革や職員給与のカット等により20年度の経常収支比率101.5%が、22年度には89.5%まで回復しました。しかしながら近隣他市のような合併による地方交付税の増額や合併特例債のない中での予算配分のため、徹底した経費の削減と見直し策が求められ、今後の市民サービスの低下が懸念されています。

発行者：館山市議会議員 龍崎 滋 千葉県館山市広瀬 755 電話 0470-36-2654

## フォトニュース

折々の活動を写真で報告致します

### ① 現場視察

実際に自分の目で見る事が大事！  
防災を語るなら現場を見なくてはならない。そんな思いから、震災後4カ月が過ぎた仙台北空港周辺と石巻へ、友人等と行きました。すでに、直後ほどの悲惨な状況はありませんでしたがそれでもなお「あまりの凄さに言葉を失いました。  
今後の一日も早い東北の復興と、我が館山市の防災をなんとかして成し遂げなければならぬということなど、様々なことについて深く考えさせられた一日でした。



① 震災4ヵ月後の石巻市内は、今もなおおひとけも少なく、瓦礫も手付かず状態のままです。(8月2日)

### ②③ 空き家対策

那古地区の方から、空き家とその宅地にある樹木についての相談がありました。所有者は他地域に住み、樹木が道をふさぎ、通行に支障があり、陽当たりも悪くなったとのことでした。都市計画課から所有者の方へ対処をお願いしてもらい、まもなく改善されました。これは大変うまくいった事例ですが、様々な都合により改善されないケースが市内には多くあります。  
住みよい街づくりのための環境整備の観点から、これは大きな課題であると思います。



② 宅地と見られるあたりはうっそうと生い茂る草木で、中の家屋すら見えない状態でした。(7月11日)  
③ 周辺住民の声を受けてさっそく役所に要望し、キレイさっぱりと。これで地域も安心です。(10月27日)

### 〈声〉『自然エネルギー』の結集

北条在住 M・K (無職六〇歳)

原発立地の自治体には、いわゆる原発マネーといわれる巨額な交付金が支払われるそうです。年間予算の半分を交付金に依存する自治体もあり、そのお金で潤う地域の公共施設などは場違いなほど超豪華な建物が建っています。あけく果ては交付金依存体質になってしまい、脱原発が叫ばれる昨今ながら、もはや財政規模を元には戻せない状況だといえます。

ひるがえって館山市といえは、依然厳しい財政状況が続く中、改革案では老人福祉センターや温水プール、博物館の存続、海水浴場の縮小等、様々な施設・システムの統廃合、縮小が

検討されています。推計によれば数年後には財源不足が生ずる恐れとのこと。そこで、苦しまぎれにも「館山に原発を誘致しよう」などという話が持ち上がったら、と想像しました。  
わが街を語る時、それは夏の海水浴場、マリンスポーツのメッカとして、さらには美しいサンゴの海中世界を持つ「海のまち」。冬はポピーやストック、菜の花が咲き乱れる「花のまち」。文化財、戦争遺跡、里見八犬伝のロマンが香る「史跡のまち」...そう考えるときやはり原発とは無縁の街なのだと思いたっています。この豊かな資源を守るためにも、まさに一人ひとりが持つ人智の「自然エネルギー」を集結すれば厳しい財政も乗り越えられるのでは。公明党議員の奮闘を期待します。

### ◇あしがき◇

議員活動の中心が議会活動にあることは言うまでもありません。さらに、地域行事や各種のセミナー、研修への参加も重要です。また、市民の方々の要望を受けての調査・報告はさらに時間や労力を費やしますが、そもそも、これこそが議員活動のあるべき姿と肝に命じ、日々取り組んでおります。

ひとりの声が、より多くの人の声となり、社会変革と市民生活の改善へ繋がっていくよう今後とも努力して参ります。皆様の叱正をお待ちしております。

### ○龍崎 滋プロフィール

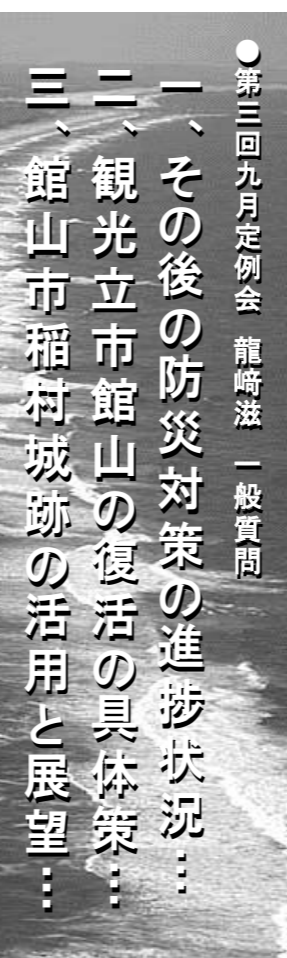
一九五四年館山市広瀬生まれ。

安房高、専修大学卒。農産物直売所「なの花村」代表。農産物直売所連絡協議会会長。田のくろ大学校・農業体験代表。

平成二十三年館山市議会議員初当選一期

【議会役職等所属委員会】

- ・ 議会運営委員会委員
- ・ 建設経済委員会委員
- ・ 農政審議会委員
- ・ 消防委員会委員
- ・ 公有地有効活用等調査特別委員会



### ●第三回九月定例会 龍崎滋 一般質問

- 一、その後の防災対策の進捗状況...
- 二、観光立市館山の復活の具体策...
- 三、館山市稲村城跡の活用と展望...

一、防災対策の進捗状況について伺います。

第二回定例会には、私をはじめ多数の議員から防災対策についての質問が出されました。いずれも市民の声に添えるものであります。防災対策はすぐに対応できるものと、一定の時間と予算を伴うものもあり、防災自体が到達点のない、常に市民の生活と共に改善され続けるものであります。

① 現在までに動き出している対策について、その進捗状況を伺います。

◎答弁：地域防災計画の見直しについて、国・県により合計三回の説明会があり、これらを受け、市としても見直しをします。また、八月に市民千人を対象に防災アンケートを実施。(アンケート結果は十月一日の市広報紙に掲載) 防災講座を自主防災会、事業所・PTA

等で十回ほど開催し、自主防災組織活動マニュアルの配布とあわせ、活動の推進をする予定。避難所や津波一時避難ビルの確保は五箇所の増設見込み。災害時相互応援協定は、山梨県笛吹市と再確認を行い、兵庫県篠山市と協議を進めています。

② 防災対策の成果をどう市民に伝え、防災意識の高揚と安全な街づくりへの啓発を行なうのかを伺います。

◎答弁：市の広報紙九月一日号で防災特集として、東日本大震災後の館山市の取組みを掲載し、今後も広報紙やホームページなどで積極的に啓発を行い、防災意識の高揚を図ってまいります。今後も、防災訓練や自主防災会組織の活動マニュアルの説明会などを行ってまいります。

二、観光立市館山の活性化について伺います。

南房総全体での観光客の入込数は、年間約五三〇万人といわれています。館山市として発表されている入込数は平成二〇年一七六万人、平成二一年一七八万人、平成二二年一六二万人です。横ばい、もしくは若干の減少傾向、そして本年の震災による風評被害により更に落ち込みが予想されます。「沈滞した観光関連の復活」と表現したのはこの様な背景によるものです。

① 沈滞した観光関連の復活を今後どのように展開していくか取り組みを伺います。

◎答弁：緊急経済対策事業補助金を活用し、館山市観光協会が「タテヤマ全開プレミアムキャンペーン」と銘打って、震災後大きな影響を受けた市内観光の復興支援策を実施。春の観光シーズンを向けては、若潮マラソン、トライアスロンアジア選手権館山大会などのイベントの開催、高速ジェット船運行による観光客誘致、館山市農産物直売所連絡協議会「アグリッシュたてやま」等による活動の推進と、早春の花やいちごなどのPRを積極的に行なっていきます。